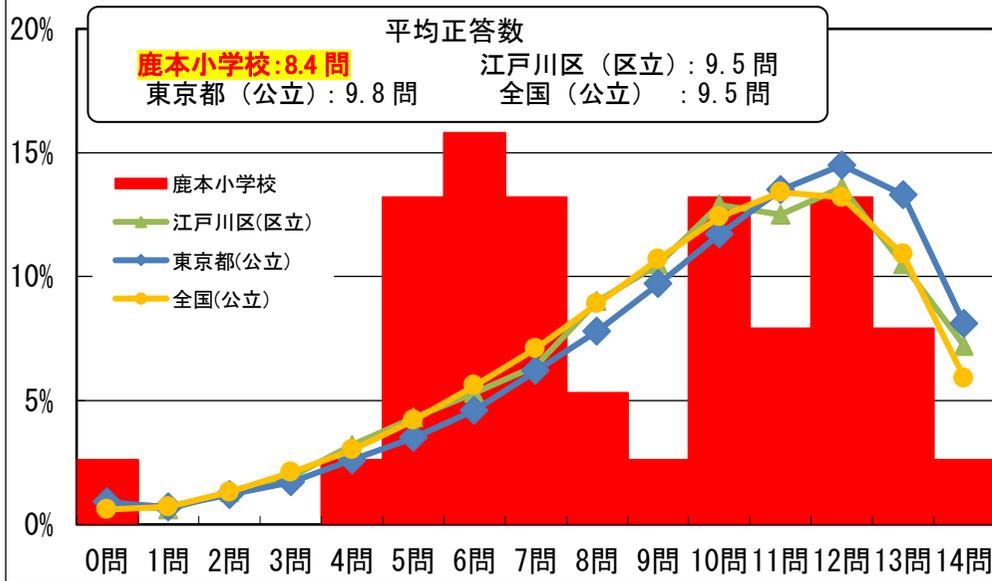


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 鹿本小学校

正答数分布



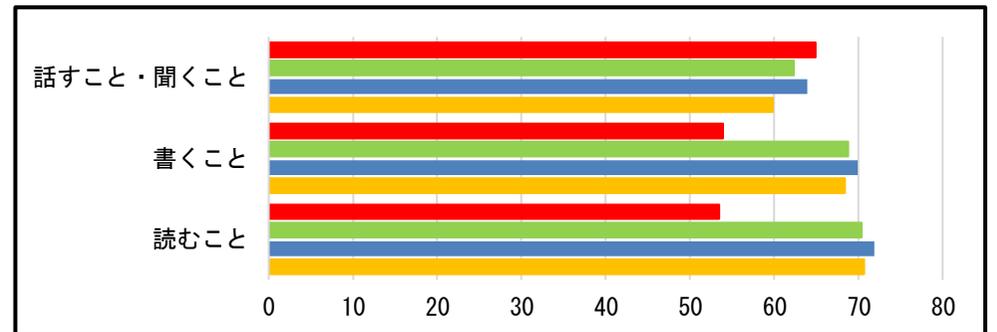
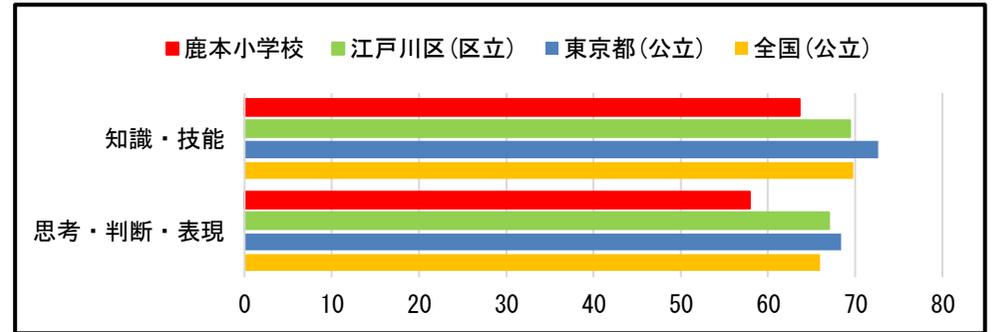
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
鹿本小学校	23.7	21.0	7.9	47.4
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

鹿本小学校	60%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	10ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

平均正答率の差は、東京都より10ポイント下回る結果となった。四分位における割合を見るとD層が最も多い。また、領域別の結果を見ると話すこと・聞くことは6割を越えているが、書くこと・読むことについては、6割を満たしていない。

今後の対策として、日々の新出漢字を反復練習し定着を図る。学校だけでなく家庭でも反復練習を行う。また、本を読む習慣をつけたり、言葉集めや語句の問題にも取り組んだりする活動を通して、書くこと・読むことの結果が6割を超えることを目指していく。